

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
大原簿記法律観光専門学校 金沢校		昭和60年12月20日		金子 秀安		〒 9200031 (住所) 石川県金沢市広岡1-1-15 (電話) 076-221-5757		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人大原学園		昭和54年4月1日		中本 毎彦		〒 1010065 (住所) 東京都千代田区西神田1-1-3 (電話) 03-3291-0151		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
文化・教養	文化・教養専門課程		公務員学科(2年制)		平成25(2013)年度	-	平成27(2015)年度	
学科の目的	本学科は、法律および行政に係る専門教育を施し、一般的に公務員として求められる、法律知識、防災知識、パソコンスキルなどを修得し、自立した社会人の育成を目的とする。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率 等)	法学全般・一般教養を学習する学科である。関連資格として漢字検定や一般教養力検定試験の取得が可能である。また、これらの知識を活かし各種公務員試験(国家一般、各都道府県事務、各市町村事務、各都道府県警察、各市町村消防、その他公務員)の合格を目指す学科である。							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,700 単位時間	1,790 単位時間	3,030 単位時間	180 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率		
60 人	41 人		0 人		0 %	0 %		
就職等の状況	■卒業者数(C)		22 人					
	■就職希望者数(D)		22 人					
	■就職者数(E)		22 人					
	■地元就職者数(F)		10 人					
	■就職率(E/D)		100 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		45 %					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100 %					
	■進学者数		0 人					
	■その他							
	(令和 6 年度卒業者に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)							
■主な就職先、業界等		(令和6年度卒業生) 各種国家公務員、各地方自治体						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL							
当該学科のホームページURL	https://www.o-hara.ac.jp/senmon/course/creator/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数					1,700 単位時間		
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					0 単位時間		
	うち企業等と連携した演習の授業時数					30 単位時間		
	うち必修授業時数					0 単位時間		
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					0 単位時間		
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					0 単位時間		
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					0 単位時間		
	(B: 単位数による算定)							
	総単位数					単位		
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数					単位		
	うち企業等と連携した演習の単位数					単位		
	うち必修単位数					単位		
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数					単位		
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数					単位		
	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)					単位		
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)					1 人		
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)					1 人		
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0 人		
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)					0 人		
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)					0 人		
	計					2 人		
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					0 人		

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①卒業生の主な就業先である国家公務員・地方自治体に関する有識者である大学や企業と連携して教育課程の編成を行うことにより、専門的かつ実践的な知識・技術を修得した即戦力となる人材を育成する。
- ②法律行政分野における学修の中心となる法律、基礎教養力、計数能力、トレーニングは勿論のこと、行政の仕組み、コミュニケーション技術や職種別の専門知識などの教育内容に関して、教育課程編成委員会を通じて常に業界の最新の情報を反映させる。
- ③上記①、②により編成された授業科目、内容が実践習得されているかどうか、教育課程編成委員による実践的視点で評価を受け、課題を浮き彫りにする事で、教育の質の確保ならびに更なる教育の質向上に活用する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

- ①位置づけについて
教務部(課)の上位に教育課程編成委員会を設置し、企業等からの提言を参考にして本校の教育課程編成について協議策定するための機関として位置づける。また、委員会での協議結果は当校該当学科の教育課程編成にも活用していく。
- ②意思決定の過程について

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
金子 秀安	大原簿記法律観光専門学校金沢校 校長	—	—
松本 府美江	大原簿記法律観光専門学校金沢校 副校長	—	—
鷲頭 直人	大原簿記法律観光専門学校金沢校 課長	—	—
礪波 一樹	大原簿記法律観光専門学校金沢校	—	—
寺 嶋 圭一	大原簿記法律観光専門学校金沢校	—	—
稲置 拓己	大原簿記法律観光専門学校金沢校	—	—
青木 太一	防衛省 自衛隊 石川地方協力本部	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	①
畠 健祐	畠総合マネジメントオフィス	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回(8月、12月)

(開催日時(実績))
第1回 令和6年8月2日 14:00～15:30
第2回 令和6年12月6日 14:00～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- ①第1回目の委員会では、担任と学生との意思疎通が難しいケースに関してご助言を賜りました。人それぞれに合わせた対応は必要という前提で、全員に提供する部分を超えた「サービス」が指導だと考える。ある程度の部分までは指導は必要だが、それを越えたサービスはする必要がない、ただし、どうしても難しい学生は一定数いることを全体で共有すべきという結論に至った。
- ②第2回目の委員会では、「聴く・書く・話す」能力向上に向けて、それぞれの業界での取り組みについてご助言を賜った。環境として、コミュニケーションをとらざるを得ない環境にしてしまうのが良い、自衛隊では共同生活を通して単発のコミュニケーションではなく、継続的なコミュニケーション能力が育まれているので、共同生活が良いという結論に至った。
- ③新たに上がる提言に関しては、今後開催される委員会にて確認を行い、次年度以降も継続して教育課程の編成を実施してく予定である。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ①文化・教養分野における実習・演習は、企業等との連携の下、学内で行なわれる学習科目が多いことを考慮して、実習・演習の組立を行なう。
- ②企業等との連携による実習・演習を通じて学生のより実践的な知識・思考・技術の修得と、社会人としての意識改革を実現する。
- ③企業等から実習・演習の授業内容、手法に関して具体的な助言を仰ぎ、学生の知識・技術の修得状況に対して実践で活かせるレベルか否かを企業等の実務の視点から評価を仰ぐ。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

職業実践の趣旨をご説明し、ご理解頂いたうえで協定書を締結し、授業の前に打ち合わせを行い、授業法方法や目標到達点、学生の習熟状況の評価など下記4点について連携を行っている。

- ①実習授業内容構築へのサポート
- ②当該実習授業における評価ポイントの確認
- ③授業方法に関する教員への指導
- ④学生の学修習熟状況の評価

(3)教育活動	①各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか。 ②修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか。 ③カリキュラムは体系的に編成されているか。 ④学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。 ⑤キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか。 ⑥授業評価の実施・評価体制はあるか。 ⑦育成目標に向け授業を行なう事ができる要件を整えた教員を確保しているか。 ⑧成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。 ⑨資格取得の指導体制はあるか。
(4)学修成果	①就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか。 ②資格取得率の向上が図られているか。 ③退学率の低減が図られているか。 ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。
(5)学生支援	①就職に対する体制は整備されているか。 ②学生相談に関する体制は整備されているか。 ③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。 ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか。 ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか。 ⑥学生寮等、学生の生活環境への支援は行なわれているか。 ⑦保護者と適切に連携しているか。 ⑧卒業生への支援体制はあるか。
(6)教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。 ②学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 ③防災に対する体制は整備されているか。
(7)学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行なわれているか。 ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 ③入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行なわれているか。 ④学納金は妥当なものとなっているか。
(8)財務	①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。 ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 ③財務について会計監査が適正に行なわれているか。 ④財務情報公開の体制整備はできているか。
(9)法令等の遵守	①法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 ③自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。 ④自己点検・自己評価結果の公開はしているか。
(10)社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行なっているか。 ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。
(11)国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況
今年度は、退学防止対策について多くの意見をいただいた。退学理由は、小中高から不登校の学生が多い。入学後から担任によるきめ細かい対応および保護者への密な連絡を行っているが、効果は薄い。次年度も引き続き、学生に寄り添った対応を行うことを確認した。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
小山 康晴	株式会社小林太郎鉄工所	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	卒業生
三納 昭博	野々市市議	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())
URL: https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/
公表時期: 令和7年10月6日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
①実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、入学希望者の適切な学習機会選択に資すること。そのために、学校関係者評価結果も含めて教育活動の状況や課題など学校全体に関する情報を分かりやすく示すこと。
②また、上記①により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼に繋げていくこと。
③情報の公表を通じて学校の教育の質の確保と向上を図ることを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	①学校の概要 ②目標・方針・特色 ③所在地、連絡先 ④学校の沿革
(2)各学科等の教育	①カリキュラム、時間割、目指す資格 ②検定、資格取得・検定試験合格実績 ③卒業生の進路
(3)教職員	各学科の担当教員紹介
(4)キャリア教育・実践的職業教育	各学科の実習紹介
(5)様々な教育活動・教育環境	①学校行事 ②クラブ活動
(6)学生の生活支援	学習や学校生活に対する不安解消(先輩の声)
(7)学生納付金・修学支援	①学生納付金 ②奨学金、学費減免等の紹介
(8)学校の財務	学園の財務状況公開
(9)学校評価	学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	留学生の募集
(11)その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法
(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())
URL: <https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/>
公表時期: 令和7年10月6日

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			一般教養Ⅰ	一般教養として、社会で求められる漢字の知識を身につける	1通	30	1		○		○		○		
2			○	キャリアデザインⅠ	面接試験で求められるビジネスマナーや立ち居振舞いを学ぶ	1通	30	1		○		○		○		
3			○	トレーニング実習	面接試験の心構えや事前準備に関する知識レクチャーと演習を行う。	1通	30	1			○	○			○	
4			○	公共ボランティア実習Ⅰ	ボランティアの基本的な在り方を学び、実習も踏まえて理解を深める	1通	30	1			○	○		○		
5			○	公務員就職試験対策講義	多様化する公務員試験に対応するための一般教養力の習得	1通	30	1		○		○		○		
6			○	キャリアデザインⅡ	面接試験に向けての自己分析・自己PR作成を行う	1通	30	1		○		○		○		
7			○	一般教養Ⅱ	漢字の学習を通じ、ことわざや故事成語など国語分野に関する知識まで身につける	2通	30	1		○		○		○		
8			○	ビジネス教養Ⅱ	電卓の学習を通じ、計算技能・集中力を養う	2通	30	1		○		○		○		
9			○	コミュニケーション概論	グループワークの形式、役割、手法について学ぶ	2通	30	1	○			○		○		
10			○	ビジネスマナー	社会で求められる一般的なビジネスマナーと電話応対を学ぶ	2通	60	2			○	○		○		
11			○	パソコン実習Ⅰ	社会で求められる一般的なレベルのWORDとEXCEL等の操作方法を学ぶ	2通	30	1			○	○		○		
12			○	公共ボランティア実習Ⅱ	ボランティアの基本的な在り方を学び、実習も踏まえて理解を深める	2通	30	1			○	○		○		
13			○	公務員就職試験対策演習	多様化する公務員試験に対応するための一般教養力の習得	2通	30	1		○		○		○		
14	○			基礎数的Ⅰ 数的推理	数学的な基礎知識を基に、文章問題を解答する	1通	50	2	○			○		○		
15	○			基礎数的Ⅱ 判断推理	数学的な基礎知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する	1通	40	2	○			○		○		
16	○			基礎数的Ⅲ 空間把握	数学的な基礎知識や空間把握能力を基に、問題を解答する	1通	40	2	○			○		○		
17	○			基礎社会科学Ⅰ 政治	基本的人権や統治機構など憲法の基礎知識を学ぶ	1通	30	1	○			○		○		
18	○			基礎社会科学Ⅱ 経済・社会	金融政策・財政政策・外国為替など、経済の基礎知識、労働問題・環境問題など、社会の基礎知識を学ぶ	1通	40	2	○			○		○		
19	○			基礎自然科学Ⅰ 生物	生体から自然環境まで、幅広い生物分野を学ぶ	1通	20	1	○			○		○		
20	○			基礎言語Ⅰ 文理・国語	文法などの国語分野の基礎的な知識と文章読解力の習得	1通	20	1	○			○		○		
21	○			総合教養演習Ⅰ 基礎教養	模擬試験と解説を通じ、数的推理・政治・文章理解の知識を学ぶ	1通	60	2		○		○		○		
22	○			総合教養演習Ⅱ 実践教養	模擬試験と解説を通じ、数的推理・判断推理・空間把握・文章理解・政治・経済・社会の知識を学ぶ	1通	60	2		○		○		○		
23			○	基礎演習Ⅱ 社会科学	政治・経済の基礎知識をアウトプットすることで定着を図る	1通	30	1		○		○		○		
24			○	基礎演習Ⅴ 知能系科目総合	問題演習を通じて数的推理・判断推理の総復習を行う	1通	60	2		○		○		○		
25			○	基礎人文科学Ⅰ 地理	気候、地形、世界各国の産業など地理の基礎知識を学ぶ	1通	30	1	○			○		○		
26			○	基礎人文科学Ⅱ 日本史	大和政権から昭和までの日本史を学ぶ	1通	30	1	○			○		○		
27			○	基礎人文科学Ⅲ 世界史	中国の歴代王朝と、ヨーロッパ世界を中心とした世界の歴史を学ぶ	1通	30	1	○			○		○		
28			○	基礎自然科学Ⅱ 地学	地球の内部構造から宇宙まで、幅広い地学分野を学ぶ	1通	20	1	○			○		○		
29			○	基礎自然科学Ⅲ 物理	電気や力学など物理分野の基礎的な知識の習得	1通	20	1	○			○		○		
30			○	基礎自然科学Ⅳ 化学	原子や化学反応など化学分野の基礎的な知識の習得	1通	20	1	○			○		○		
31			○	基礎演習Ⅰ 数的処理	数的処理の基礎知識をアウトプットすることで定着を図る	1通	40	2		○		○		○		

32			○	基礎演習Ⅵ 知識系科目総合	問題演習を通じて知識系科目全体の総復習を行う	1通	60	2		○		○		○		
33			○	公務員 基礎情報工学	情報処理に活用することを前提とした数学知識の習得	1通	30	1	○			○		○		
34			○	公務員 IT基礎知識	デジタル枠での採用試験への対応を前提としたIT知識の習得	1通	30	1	○			○		○		
35			○	基礎答案練習	本試験形式の1次試験から2次試験までを体験する	1通	20	1		○		○		○		
36			○	憲法	基本的人権や統治機構など憲法の基礎知識を学ぶ	1通	60	2	○			○		○		
37			○	民法	総則や物権、債権など民法の基礎知識を学ぶ	1通	70	3	○			○		○		
38			○	行政法	行政法の基礎知識を学ぶ	1通	60	3	○			○		○		
39			○	政治学	政治学の基礎知識を学ぶ	1通	20	1	○			○		○		
40			○	ミクロ経済学	ミクロ経済学の基礎知識を学ぶ	1通	60	2	○			○		○		
41			○	マクロ経済学	マクロ経済学の基礎知識を学ぶ	1通	60	2	○			○		○		
42			○	社会学	社会学の基礎知識を学ぶ	1通	20	1	○			○		○		
43			○	会计学	会计学の基礎知識を学ぶ	1通	20	1	○			○		○		
44			○	社会事情	社会事情の基礎知識を学ぶ	1通	20	1	○			○		○		
45			○	経済事情	経済事情の基礎知識を学ぶ	1通	20	1	○			○		○		
46			○	国際関係	国際関係の基礎知識を学ぶ	1通	20	1	○			○		○		
47			○	経営学	経営学の基礎知識を学ぶ	1通	20	1	○			○		○		
48			○	就職活動準備	公務員及び民間就職の活動前に基礎的なビジネスマナーや所作を学ぶ	1通	90	3		○		○		○		
49			○	公務員模擬受験	模擬公務員試験を実施し実際の公務員試験の流れを把握する	1通	20	1		○		○		○		
50			○	専門科目総合演習Ⅰ	専門科目全般の問題演習による総合力の強化	1通	60	2		○		○		○		
51			○	基礎演習Ⅲ 人文科学	地理・歴史の基礎知識をアウトプットすることで定着を図る	1通	30	1		○		○		○		
52			○	基礎演習Ⅳ 自然科学	生物・地学の基礎知識をアウトプットすることで知識の定着を図る	1通	20	1		○		○		○		
53			○	行政学	行政学の基礎知識を学ぶ	1通	20	1	○			○		○		
54			○	財政学	財政学の基礎知識を学ぶ	1通	20	1	○			○		○		
55			○	職業実務Ⅰ	実務経験者の講義を受け、研究および発表を通じて地方行政の取り組みを学ぶ	1通	15	1		○		○		○		
56			○	職業実務Ⅱ	警察署から講師をお招きし、その講義から得た知識を基に官庁企業研究を行う	1通	15	1		○		○		○		
57			○	職業実務Ⅲ	官公庁(国家省庁等)から講師をお招きし、その講義から得た知識を基に官庁企業研究を行う。	1通	15	1		○		○		○		
58			○	職業実務Ⅳ	実務経験の豊富な講師をお招きし、その講義から得た知識を基に消防官職種研究を行う	1通	15	1		○		○		○		
59			○	職業実務Ⅴ	官公庁(国家公安職)から講師をお招きし、その講義から得た知識を基に官庁企業研究を行う。	1通	15	1		○		○		○		
60			○	公官庁講話	現役公務員の様々な職種の方の講話を聴き職種への理解を深める	2通	20	1	○			○		○		
61			○	基礎人文科学総合	西洋および東洋の倫理や芸術、文学を学ぶ	2通	20	1	○			○		○		
62			○	応用演習 数的処理Ⅱ	問題演習を通じ、数的処理の応用知識を学ぶ	2通	20	1	○			○		○		
63			○	公務員時事対策	自然科学から国際問題まで幅広いジャンルの社会時事を学ぶ	2通	30	1	○			○		○		
64			○	基礎自然科学総合	理数系科目の基礎を幅広く総合的に学ぶ	2通	20	1	○			○		○		
65			○	基礎数学Ⅰ	基本的な数学計算の能力を身に着け、文章問題を解答する	2通	20	1	○			○		○		
66			○	基礎言語Ⅱ 英語	文法や熟語など英語分野の基礎的な知識の習得	2通	30	1	○			○		○		
67			○	応用演習 数的処理Ⅰ	問題演習を通じ、数的処理の応用知識を学ぶ	2通	20	1		○		○		○		

68			○	応用演習 知識系科目総合Ⅰ	問題演習を通じ、知識系科目の応用知識を学ぶ	2通	20	1		○		○		○		
69			○	応用演習 知識系科目総合Ⅱ	問題演習を通じ、知識系科目の応用知識を学ぶ	2通	20	1		○		○		○		
70			○	応用演習 数的処理本試験対策	数的分野全般について、更なる問題演習による試験直前の応用力強化	2通	20	1		○		○		○		
71			○	応用演習 知識系科目本試験対策	知識系科目全般について、更なる問題演習による試験直前の応用力強化	2通	20	1		○		○		○		
72			○	総合答案練習Ⅰ	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2通	150	5		○		○		○		
73			○	総合答案練習Ⅱ	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2通	40	2		○		○		○		
74			○	直前答案練習Ⅰ	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2通	180	6		○		○		○		
75			○	直前答案練習Ⅱ	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2通	120	4		○		○		○		
76			○	直前答案練習Ⅲ	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2通	30	1		○		○		○		
77			○	上級答案練習Ⅰ 専門科目	模擬試験と解答解説の学習を通じ、専門科目の知識を学ぶ	2通	60	2		○		○		○		
78			○	上級答案練習Ⅱ 専門科目	模擬試験と解答解説の学習を通じ、専門科目の知識を学ぶ	2通	60	2		○		○		○		
79			○	上級答案練習Ⅲ 教養科目	模擬試験と解答解説の学習を通じ、教養科目の知識を学ぶ	2通	30	1		○		○		○		
80			○	上級答案練習Ⅳ 教養科目	模擬試験と解答解説の学習を通じ、教養科目の知識を学ぶ	2通	30	1		○		○		○		
81			○	上級答案練習Ⅴ 公安職対策	模擬試験と解答解説の学習を通じ、教養科目の知識を学ぶ	2通	30	1		○		○		○		
82			○	上級答案練習 総合試験対策	模擬試験と解答解説の学習を通じ、教養科目および専門科目の知識を学ぶ	2通	180	6		○		○		○		
83			○	専門科目総合演習Ⅱ	専門科目全般の問題演習による総合力の強化	2通	120	4		○		○		○		
84			○	公務員時事研究	就職先に関連する社会的ニュースを考察する	2通	60	2		○		○		○		
85			○	公務員キャリアデザイン 基礎	効果測定を通して面接の基礎を修得し、4試験種に向けた面接指導を行う	2通	90	3		○		○		○		
86			○	公務員キャリアデザイン 公務員春試験	公務員春試験の二次試験を踏まえた実践的な面接の練習	2通	30	1		○		○		○		
87			○	公務員適性検査演習Ⅰ	公務員試験で重視される事務適性試験の得点力を強化する	2通	60	2		○		○		○		
88			○	公務員適性検査演習Ⅱ	公務員試験で重視される事務適性試験の得点力を強化する	2通	30	1		○		○		○		
89			○	公務員教養論作文対策	公務員初級試験を見据えての文章作成スキルの習得	2通	30	1		○		○		○		
90			○	公務員専門論作文対策	専門論文・論作文対策について学ぶ	2通	30	1		○		○		○		
91			○	公務員倫理	公務人材開発協会より講師をお招きし、公務員に関する法令や服務規程を学ぶ	2通	15	1		○		○		○		
92			○	法律研究	法律に関する講義を受け、研究および発表を通じて法律の考え方を学ぶ	2通	30	1		○		○		○		
93			○	行政研究	災害対策に関する講義を受け、研究・発表を通じて防災への理解を深める	2通	30	1		○		○		○		
94			○	Excel基礎	Excelの基礎操作並びに関数の効果的な使用方法を習得する	2通	60	2		○		○		○		
95			○	Word基礎	PCの基礎操作並びにWordの基礎操作を理解する	2通	30	1		○		○		○		
96			○	FP基礎	日常生活に関わる様々なお金の知識を身につける	2通	120	4		○		○		○		
97			○	FP応用	日常生活に関わる様々なお金の知識を身につける	2通	60	2		○		○		○		
98			○	FP総合	「お金」に関する総合的な知識を深め、経済社会との関係性を理解する	2通	90	3		○		○		○		
99			○	パソコン実習Ⅱ	Excelの資料作成、作業スピードを向上するテクニックを習得する	2通	30	1		○		○		○		
100			○	パソコン実習Ⅲ	応用的な機能を活用した文書作成や複雑なデータ集計を行うスキル習得のための実習	2通	30	1		○		○		○		
101			○	英会話入門	日常生活での簡単な英会話を事例をもとに学習する	2通	30	1		○		○		○		
102			○	経理実務	経理実務で必要となる業務内容を体系的に学び、知識を習得するための講義	2通	60	2	○	△		○		○		
103			○	給与計算実務	所得税・住民税の基礎知識を体系的に理解し、特に年末調整事務に必要な知識を習得する講義	2通	90	3	○	△		○		○		

104			○	財務会計	財務諸表の作成に関する知識と技術を身につけ、財務会計の意義や制度を理解するための講義	2通	90	3	○	△		○		○		
105			○	ITパスポート基礎	情報技術の基礎となる考え方・仕組み・専門用語を理解する	2通	90	3	○			○		○		
106			○	ITパスポート・リテラシ演習	情報技術の考え方・仕組み・専門用語を問題演習を通じて学ぶ	2通	30	1		○		○		○		
107			○	ITパスポート応用	基礎レベルではやや難しい情報技術の考え方をを問題演習を通じて学ぶ	2通	60	2	○	△		○		○		
108			○	販売知識基礎	仕入れ在庫管理・接客マナー・企画立案、マネジメントの知識を理解する	2通	90	3	○			○		○		
109			○	販売知識応用	小売業について体系的に学び、実務的なビジネスの知識を理解する	2通	90	3	○			○		○		
110			○	卒業前特別講座	社会人として必要な考え方やスキルを学ぶ	2通	30	1	○			○		○		
111			○	マーケティング概論	マーケティングの必要性と目的を学習する	2通	60	2	○	△		○		○		
112			○	卒業研究・発表	実店舗を題材にして、課題に対する改善案を提案し発表する	2通	60	2		○		○		○		
113			○	秘書実務	秘書的業務についての基礎的な知識と技能を学ぶ	2通	60	2		○		○		○		
114			○	秘書総合	秘書的業務についての知識と技能を身に付けるための応用的な演習を行う	2通	60	2		○		○		○		
合計						114	科目	5000 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法							授業期間等	
卒業要件： 修業年限以上在学し、学科の定める授業時間以上履修、かつその該当する所定の授業科目及び単位数を修得し、最終学年の終わりに行われる卒業審査に合格した者。							1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 必修科目は必ず履修し、選択必修科目は別に定める別表に従い系統別に履修する。							1 学期の授業期間	22 週

- (留意事項)
- 1

一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2

企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。